

なからぎ

185号

2008年10月

図書館は知の宝庫

学生部長 木戸 康博

1980年頃に、ある人から「〇〇と脳卒中の関係に関する論文を調べてください」と依頼されました。早速、図書館に行き「ケミカルアブストラクト」を書架から取り出し、「〇〇」と「脳卒中」をキーワードに文献検索を開始しました。「現在から過去に向かって「ケミカルアブストラクト」を一冊ずつ調べ、関連する論文のタイトルと雑誌名などをノートに書き出し、当該雑誌を探しに書庫に向かう。書庫から雑誌を持ち出し、論文のコピーをとる。コピーした論文を詳しく読み、それらの内容をまとめる。」という作業です。午後5時以降に作業し、約1週間かかったことを記憶しています。現在なら、「パソコンでパプメド (PubMed) を開き、「〇〇」と「脳卒中」というキーワードを入力し、ヒットした論文の一覧表をパソコンの画面上で確認します。表示された論文を「電子ジャーナル」から呼びだし、パソコンの画面上で読み、必要な論文だけ印刷をし、詳しく読み、それらの内容をまとめる。」という作業です。

当時に比べると現在では、文献検索や関連論文の入手も非常に便利になりました。目的を達成するためには、余分なことは何もする必要がありません。必要なところだけ見る(探す)。そして、コピー & ペーストを操作するだけで書き取る必要もありません。非常に効率よく目的を達成することができるようになりました。しかし、以前のように「〇〇」と「脳卒中」のキーワードの前後の事柄まで読むことも、必要な事項を書き取ることもなくなっていました。

最近、教育の基本的理念について考えることがあります。教育の根本的な理念や原則を定めた教育基本法*が約60年ぶりに改正され、新しい時代の教育の基本理念が示されました。また、教育振興基本計画**が策定されました。改正された法律では新たに「大学」についても、大学の役割や、自主性・自律性など大学の特性が尊重されるべきこととして規定されています。大学の教育研究において、どれだけ時間と資金を使っても通過しなければならないことがあります。深く真理を探究して新たな知見を創造するためには、うまくいかないことを経験することも必要です。経済効果の視点だけでは評価出来ないのが教育です。一見無駄に見えることも無駄ではなく、教育においては無駄も必要であると思います。このような意味で「時間」、「人」、「施設・設備」と「資金」に「ゆとり」が必要です。

図書館は知の宝庫です。時間を作って図書館に出向き、いろいろな書籍や雑誌を読んでみませんか。研究に関係した雑誌の目次を毎月、毎週目を通してみるのもよいと思います。是非、図書館に足を運んでいただき、図書館を有効に活用して下さい。知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自己実現を目指す自立した人間の育成を目指すためには図書館は大学にとって必須です。

(きど やすひろ： 生命環境科学研究科教授)

* 教育基本法(昭和22年法律第25号)が約60年ぶりに改正(平成18年法律第120号)され、平成18年12月15日成立、同年12月22日公布・施行されました。

** 教育振興基本計画が教育基本法第17条第1項の規定に基づき平成20年7月1日閣議決定されました。

人生の岐路で出会った本

図書館運営委員 沼田宗典

高校生のころアインシュタインが好きで、将来は絶対に大学に残って物理の研究をしたいと思っていた。人より長く浪人生活を送ったが、結局入った学科は物理系ではなく化学系の学科であった。第一志望の大学でもなく、物理学科でもなかったのので、目標が定まっていなかったのかもしれない。1、2 回生の頃は積極的に勉強した記憶はあまりない。それでも化学はもともと嫌いではなかったので、専門の授業を受けて行くうちにどんどん面白くなり、3 回生のころには取れる授業はほとんど受講した。特に、福井謙一先生のフロンティア軌道理論を授業で習ったとき、“化学は美しい”と感激したのをおぼえている。

当時私は実家から大学に通っていたので、電車の中で色々な本を読んでいた。その後人生の岐路に立った時、今振り返ってみるとこうした本の内容が道標となっていたかもしれない。例えば、学部の 2、3 回生のころに読んだ、リチャード・ドーキンス著「利己的な遺伝子」は生化学に興味を持つきっかけになった。本の中で「あらゆる生物は遺伝子を運搬するための生存機械にすぎない」と著者は言い切り、この考えが最初から最後まで貫かれている。具体的な生物の行動について例を挙げ、利己的な遺伝子に操られた生物の行動を立証している。この論理を人間の行動に当てはめて考えてみると、人間不信に陥りかねない内容だが、著者の真意はたぶん違う。ページ数は結構あったが、内容的には非常に新鮮で面白かった。現在でも増補版が出ているベストセラーであり、読んだ人も多いのではないだろうか。

4 回生になるときは生化学の研究室か、有機化

成の研究室か、随分悩んだが生化学をやるにしても基礎は有機化学だろうと、頭でっかちな考え方で結局有機合成の研究室を選んだ。しかし、その後も生物を化学的な視点で捉える興味はますます強くなっていった。分子生物学というのを知ったのは、有機合成の研究を始めて間もない頃だったと思う。文藝春秋の「精神と物質」は分子生物学についてだけでなく、研究者としての生き方についても学べた当時私にとっては貴重な本であった。内容は、ノーベル生理学・医学賞受賞者の利根川進氏が京大理学部から単身アメリカの大学に移って、ノーベル賞の栄誉を勝ち取るまでの経緯が立花隆氏との対談形式で紹介されている。分子生物学の基本や実験法などがわかりやすく解説されているため、高校生物の知識でも十分に読み進む事ができる。実際当時、分子生物学の知識などほとんど無かった私にも内容は十分理解する事ができた。利根川氏は「抗体の多様性生成の遺伝学的原理の解明」によって単独でノーベル賞を受賞するわけであるが、当時定説であった考え方に一人で真っ向から立ち向かい、仮説と検証を繰り返しながら真実に少しずつ近づいて行く様子が生き生きと伝わってくる。無名の研究者がいかにして世紀の大発見を成し遂げ、誰もが認める大研究者になっていったのか、nobody から somebody へのドラマは劇的で面白い。研究に対するあくことのない探究心はもちろんであるが、色々な研究者との出会い、そして時として楽観的などころも研究者には必要なのだとこの対談から読み取れる。

修士課程を修了して、私は京都から九州の大学に移る事を決意した。研究分野を少しシフトして、

化学の視点で生物をもっと理解してみたかった。今はほとんど使われる事も無くなった気がするが、バイオミメティクスケミストリー (生体模倣化学) という分野が当時盛んであった。この分野の第一人者であったある先生のところに博士課程から入学させてもらえる事になった。当時、博士課程から進路を変えるのは無謀だと周囲に言われたが、何の縁もゆかりも無いところに単独で乗り込む決意をしたのには、利根川氏のアクティビティーに感銘を受けたことが影響していたはずである。勢いよく飛び出したのはよかったのだが、その後 10 年にわたって九州で生活することになるとは当時は全く予測していなかった。

この 4 月によろやく京都にもどってきた。化学で生物を完全に理解するにはまだまだ時間が必要であることはよくわかった。逆に生物をお手本にして利用したりすると化学はもっと面白く展開していける事がわかり、これは収穫である。

最近、非常勤で受け持った授業でフロンティア軌道理論を教える機会があった。私にとっては人生初の講義である。大学時代のノートまで引っ張り出してきて、当時の感動をできるだけ学生に伝えるよう努力をしたが、伝わったかどうか真相はわからない。ちょうどこの講義の準備段階で「**哲学の創造**」という本を読んだ。福井先生と梅原猛氏のこれも対談ものである。人文学者との対談であるため、純理系の私にとってはなじみの薄い内容が至る所に出てくるが、それなりに読み進んで行ける。なるほど歴史学とはそういう学問なのか、と感心しながら、一方で創造的研究について語る福井先生の発言の中にはハッとさせられる言葉がいくつもある。真に創造的な研究とは?。この 10 年近く同じ教授の下で研究をしてきた私にとって、いかにしてこの教授の色を払拭し自分自

身の研究を打ち立てて行くかは極めて重要な課題であり、常日頃から考えていた。その意味でこの本の内容は参考になるところがあった。創造的な研究に着想するにはどうすべきか。対談の中で福井先生は科学者の直感の重要性に触れている。「自然科学というのは論理性が重んじられる学問のようにとらえられますが、論理というのはいくらそれが整っていても、たかだか論理でしかないのです。最初から論理的に導けるものであれば、だれでもその結論を導く可能性があります。逆に、論理によらない直感的な選択によって出された結論というのは、誰にも真似できない。したがって、まったく新しい学問というのは、論理によらない直感的選択から始まる場合が多いはずなのです (本文より抜粋)」。なるほど、ノーベル賞受賞者にきっぱり言われると説得力がある。ここではもちろん素人の直感ではダメで、しっかりした知識を持った玄人による科学的直感ということである。私にもヒラメキが舞い降りる日がやってくる事を祈って、日々コツコツ努力するしかない。ちなみに、その直感力を養うには、「自然に敏感に感応すること」だそうである。蛇足であるが、ノーベル賞受賞者の育った環境には共通して美しい田園風景があるというのを別の本で読んだことがある。福井先生も幼少期は奈良の田園地帯で過ごされていたとのこと。

府立大では生命分子化学科に所属して、希望通り生物と化学の境界領域を研究のフィールドとすることになった。あとは“nobody から somebody へ”、を目指したい。またそのうち人生の節目で新たな本との出会いがやってくることを楽しみにしている。

(ぬまた むねのり 生命環境科学研究科准教授)

御紹介の「利己的な遺伝子」<増補新装版>日高敏隆・岸由二・羽田節子・垂水雄二訳 紀伊國屋書店 2006 年刊 (請求番号 467 || D)、「精神と物質：分子生物学はどこまで生命の謎を解けるか」立花隆・利根川進著 文藝春秋 1990 年刊 (請求番号 464.1 || T)、「哲学の創造」梅原猛・福井謙一著 P H P 研究所 1996 年刊 (請求番号 404 || U) を 2 階閲覧室入口の新着図書コーナーに配架していますので、御利用ください。

しごと 職業・資格・調べ方・論文の書き方に関する資料コーナー



を新しく作りました！

今夏の蔵書点検を機に、各主題の書架に並んでいた「職業(しごと)・資格・調べ方・論文の書き方に関する資料」を一箇所に集めてみました。閲覧室を入ったところの窓側に新しく書架を設置しましたが、もう気づいていただけたでしょうか？

ここ数年、図書館ではこれらの資料を力を入れて収集してきました。

学生生活に必須のものばかり。すぐに役立つことはもちろん、近い将来を考える参考になるのではと思います。

従来から利用の多い資料たちですので、既に多くの図書が貸し出されています。アクセスもしやすくなったと

思いますので、どんどん利用してください。

なお、教員免許に関するものは『教職・教科書コーナー』に、TOEICなどの語学関係の資格はそれぞれの分野の書架に、今までどおり並んでいますのでご注意ください。

今後も資料の充実に努めていきます。

気がついたことや要望など、なんでも遠慮なくお寄せいただければありがたいです。



平成 20 年度蔵書整理報告

8月12日(火)～29日(金)の間、2階閲覧室を休室して蔵書点検を行い、図書館の蔵書が所在不明になっていないか、間違った場所に置かれていないかを点検しました。

まず、書架整理を行った後、1冊ずつバーコードリーダーで読み取り作業をします。次にパソコンにデータを送り、打ち出されてきた不明図書や配架間違いの図書を探す作業を行います。時には床に顔を近づけて落ちている図書がないか探したりもします。

皆さんには毎年ご迷惑をおかけしますが、閉室にしないとできない作業であり、利用しやすい図書館にするために必要な作業であるということをご理解ください。

今年度は、アルバイトの学生さんにも手伝っていただいた結果、2階閲覧室に加え書庫部分の約半分も合わせて点検することができました。

(点検数 - 86,248 冊 図書館蔵書数の約6割に相当)

今年度の不明図書は28冊(昨年度は52冊)でした。今回の点検で昨年度までに不明になっていた図書が22冊発見され、平成14年度からの累積不明図書は509冊になりました。



京都府公立大学法人中期計画等について

京都府立大学は本年度から公立大学法人へ移行し、京都府知事により中期目標が策定されました。この中期目標を達成するため、法人は中期計画を定め、これに従い自主性・自律性をもって業務を実施します。中期目標の期間は本年度から6年間です。法人は、期間中の業務運営に関して、中期計画に基づき各年度に実施すべき事項について年度計画を定めます。この中期目標・中期計画・年度計画のうち附属図書館に関する部分を以下に紹介します。

中 期 目 標	中 期 計 画	平成20年度・年度計画
<p>第2 教育研究等の質の向上に関する事項</p> <p>1 教育等に関する目標</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>イ 教育環境等の充実</p> <p>(イ)学術情報収集機能を拡充するため、附属図書館等の機能充実・整備を図る。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>3 地域貢献に関する目標</p> <p>ア 府民・地域社会との連携 (多様な学習機会の提供)</p> <p>(イ)大学の施設を積極的に地域に開放し、地域との交流及び地域貢献を行う。</p>	<p>(カ)図書館の資料・情報を充実し、教養教育、専門教育及び研究にふさわしい蔵書の構築、電子ジャーナルの拡充を進めるとともに、利用者のニーズに的確に対応できる運用体制を整備する。</p> <p>(キ)図書館の夜間開館時間の延長など、利用時間の拡大を進めるとともに、専門的なレファレンスサービスを充実する。また、図書館の利用向上のために図書館利用ガイダンスを充実する。</p> <p>※レファレンスサービス：図書館利用者に対して、研究や調査に必要な資料等の情報等を提供するサービス</p> <p>(ク)他大学図書館との連携も含め、法人化を踏まえた新しい大学の目標にふさわしい図書館のあり方を検討する。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(カ)附属図書館、附属農場及び附属演習林等の一般開放をさらに進める。</p> <p>(カ)図書館の一層の電子化の促進により、府民の閲覧開架資料へのアクセスを容易にし、サービス向上に資する。</p>	<p>(カ)図書・雑誌、電子ジャーナル等、図書館の資料・情報の充実を図る。</p> <p>(キ)-1 利用者要求に応えられる安定的な図書館システムの構築を図る。</p> <p>(キ)-2 全学所蔵資料のデータ化など、目録情報の電子化の推進を図る。</p> <p>(キ)-3 図書館の開館時間を夜9時までとし、1時間延長する。</p> <p>(キ)-4 図書館職員による情報リテラシー教育を行う。 ・新入生向け図書館利用ガイダンスや資料・情報の検索実習を行う。</p> <p>(ク)図書館のあり方について、図書館運営委員会において検討する。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(カ)図書館の開館時間を夜9時までとし、1時間延長する。</p> <p>(カ)図書館所蔵資料のデータ化を推進するなど、府民の図書館所蔵資料へのアクセスを容易にし、サービス向上に資する。</p>

'08 オープンキャンパス開催される

7月26日(土)・27日(日)の両日、'08 オープンキャンパスが開催されました。全体で、高校生等1863人、保護者等848人、合計2711人の参加者があり、昨年度より116人増加しました。本年4月の学部・学科再編にあわせたプログラムとなり、学科ガイダンスや模擬授業などが実施されました。

図書館では両日とも午前10時から午後4時まで2階閲覧室を開放し、図書館の蔵書を手にとって御覧いただきました。三重県の高等学校から団体で参加された生徒さんも図書館に立ち寄られました。来館者は、26日が461人(うち高校生等368人)、27日が202人(うち高校生等136人)の合計663人で、昨年度より88人減少したものの、多くの方々でにぎわいました。例年どおり人文・社会科学系の参加者(26日)の来館が自然科学系の参加者(27日)に比べて多かったのが特徴です。閲覧室の様子をざっと見て回る生徒さん達が多い中で、座席で熱心に読書をする姿も見られました。また、OPAC(検索用パソコン)で資料の検索をされる方、3階の各室の状況や書庫の所蔵図書について質問された方、府大図書コーナーや大型図書に興味を持たれた方もおられました。



こうした催しに来館される方々に、本学図書館が魅力あふれるものと受け取られるよう、図書館員一同、今後とも一層努力していきたいと考えています。

カレンダー

2008年10月							2008年11月							2008年12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1							
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31			
							30													

<p>★10/1(水)～ 後期授業スタート 通常開館 9:00～21:00 通常貸出(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)</p> <p>★10/8(水) 夏休み貸出返却期限</p> <p>★10/13(月)休館 体育の日</p>	<p>★11/4(火)・6(木)～28(金) 通常開館 9:00～21:00 通常貸出(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)</p> <p>★11/3(月)休館 文化の日</p> <p>★11/5(水)休館 創立記念日</p> <p>★11/14(金) 六公立のため、16:45閉館</p> <p>★11/24(月)休館 振替休日</p>	<p>★12/1(月)～24(水) 通常開館 9:00～21:00 通常貸出 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)</p> <p>★12/11(木) 冬休み貸出 実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限:1/16(金))</p> <p>★12/23(火)休館 天皇誕生日</p> <p>★12/25(木)～26(金) 冬季休業のため、 16:45閉館</p> <p>★12/27(土)～1/4(日) 年末年始休館</p>
--	--	---

開館時間等		
下記以外の10/1(水)～12/24(水)通常開館	9:00	～ 21:00
11/14(金)六公立・12/25(木)～26(金)冬季休業	9:00	～ 16:45
休館日	土・日・祝 創立記念日11/5(水) 年末年始(12/27(土)～1/4(日))	